



各学校にスマイルルームを 設置しては

山岡 幹雄議員

設置は慎重に検討する必要がある

教育部長

問 不登校の現状は。
答 令和3年度、小学校で34人、中学校で82人。

問 不登校生徒や保護者が傷つくことなく支援できる体制の取り組みは。
答 学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー等による児童・生徒や保護者との教育相談体制の充実を図っている。

問 名古屋市は不登校生徒の居場所として、学校にスマイルルームを設置。職員が常勤し、間仕切りにより周囲から見えない場所で勉強できる。生徒が自分のペースで過ごせ、学校に行けるメリットを強調する。
不登校生徒を支援するため各学校にスマイルルームを設置しては。
答 設置は、慎重に検討する必要がある。

マイナンバーカード
啓発と促進は

問 国は経済対策で新マイナポイント事業を開始する。市の交付率は。

答 令和4年11月27日現在48.7%。

問 マイナンバーカードは、保険証やお薬手帳、運転免許証と二体化を検討中で、様々な機能を保持する予定だ。社会保障や年金などの手続も円滑に実施できる環境整備が進んでいる。
デジタル庁は、健康保険証を廃止し二体化を目指す方針を発表した。カードの普及と活用の促進をどのように行うか。

答 広報、ホームページ等で情報を伝える。12月から近隣集客施設でマイナンバーカードの啓発、申請支援を行う。
カードの交付は、平日に来庁が困難な場合は、

土・日の臨時開庁交付や毎月第2日曜日の開庁日、第2・第4水曜日の延長業務では予約制で交付を行う。

利活用については、市民課でのカードの申請書作成支援や健康保険証と公的個人認証サービスで利用できる。市独自の活用は今後の検討課題だ。



▲マイナンバーカード特設会場